

疲れている時ほど、新しい出会いを頂いているような気がする。被昇天祭前日の朝。この日はいつになく、ゆったりした気分だった。いすに深々と腰を掛け、夜のミサの説教を考えていた。朝九時ごろ玄関のベルが鳴った。出てみると一見ホムレスの方のように見える。自分の気持ちに余裕があったのだろう、玄関の横にあるベンチに腰を掛け、まず、ゆっくり話を聞くことにした。ちょうどこの時間は、教会では掃除をしている。腰を掛けたままだと掃除の邪魔になりそうだったの

で、司祭館に戻って急いで着替え、一緒にほうきを持って掃除をしながら話すことにした▼この方は仏教の教えに詳しく、

2004.9.5

地の塩

聖書も読んでいた。神社仏閣や教会を転々としてきたようで、住職の方や牧師、司祭、教会のこと

局、掃除ははかどらず、ほうきを持ったまま一時間以上も立ち話をしてしまった。その間、掃除をしている信者の方たちが温かい視線を投げ掛けてくれたのがなんとなくうれしかった▼彼は話した。キリスト教は、他の宗教とは違うと思う。キリストの教えは「キリストの道」ともいうべきもので、人生の歩みの中で、神の前で「悔い改め」を要求する。神を信じることは、生きるか死ぬかの問題であって、それは単に宗教儀礼を行うことではない。残念なことには、今のキリスト教は形にとられすぎているのではないか。目の前の人そのものではなく、体裁や組織、管理を大切にして、キリストの教えから離れている。キリストは仕えることによって仕えることを教え、貧しい人、虐げられた人を大切にすることを教えた：▼その夜、ミサの中で読まれた福音は「マリアの讃歌」だった。彼と語ったことを話した。ミサ後のバーベキュー、自分が参加したら雰囲気壊すかと遠慮していた彼が来てくれた。彼と会話する方々の「普通の」表情が印象的だった。(Y)